

2025 年5月 1 日  
セイコーエプソン株式会社

2024 年度 通期決算説明会  
主な質疑応答

●全社

Q：新社長として今後エプソンをどのように変えていきたいか、考えを聞かせてほしい。

A：足元では総原価低減を図ると同時に、成長戦略を具現化し売上を伸ばす必要がある。

中長期的にはインクジェット技術やプリントヘッドを核に、既存領域の成長と新領域の開拓を進め「インクジェットイノベーション」を実現したい。特に産業領域には大きな可能性があるため、引き続き経営資源を投入していく。また長期的には「省・小・精の技術」開発を進め次の芽を作っていきたい。

エプソンはこれまで得意としてきたハードウェアの提供にとどまらず、お客さまのお困りごとを解決するソリューションカンパニーへと変革していきたい。そのためには、お客さまとの接点を強化することに加え、既存製品を組み合わせた新たな提案や共創パートナーとの連携、ソフトウェア強化などの検討・取り組みを進めている。Fiery とのシナジーの実現についても早期に進めていきたい。

Q：米国関税コストの増加額は年間 170 億円であるのに対し、事業利益への影響額は 80 億円で留めるとのことだが、対応策を教えてください。

A：基本的に米国における値上げで対応する。しかし、値上げによる数量の減少、景気後退による需要の減退により、80 億円の利益マイナス影響は残ると見込んでいる。なお、米国関税政策の影響は不透明なため動向を注視し、生産拠点の移管や販売・プロモーションコストの最適化などに取り組み、影響の極小化に努める。

Q：US ドル、EUR 以外で業績への影響が大きい通貨を教えてください。

A：エプソンは、グローバルで市場シェアの高い製品も多く、西欧・北米などの先進国だけでなく、アジアや南米などでも為替変動による業績影響も受ける。アジアでは、人民元、インドルピーなど、中南米ではブラジルレアル、メキシコペソなどの通貨影響が大きい。

●マニュファクチャリング関連・ウェアラブル

Q：FY25のセグメント利益が、前年から大きく改善する要因はなにか。

A：各事業での総原価低減活動により、主にマニュファクチャリングソリューションズ事業とマイクロデバイス事業の収益性改善を見込んでいる。

マニュファクチャリングソリューションズ事業では価格競争力の高い戦略製品の投入に加え、固定費削減をはじめとしたオペレーション改革による改善を、またマイクロデバイス事業では市場の緩やかな回復による増収とともに、前期より取り組んできた固定費削減の効果を見込んでいる。

以上